

令和5年度自己評価表（中間評価）

鳥取県立青谷高等学校

長期目標 (学校ビジョン)	～ふるさとキャリア教育 生涯学び続けるために～ 自分らしさに誇りを持ち、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成	今年度の 重点目標	1 知を磨く 2 徳を高める 3 健康を育む well-being 4 業務改善の推進	○進路実現100% 生涯にわたって学び続ける力を育成する。 ○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。 ○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。 ○時間外業務時間縮減を推進する。
----------------------	---	------------------	--	--

評価基準 A：十分達成（95%） B：概ね達成（75%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

年 度 当 初				評 価 結 果 （ 9 ） 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 知を磨く	○進路実現100％ 生涯にわたって学び続ける力を育成する。	○昨年度進路実現率98.1％。 ○全年次で平日及び夏季補習を実施。学校推薦型選抜や総合型選抜等、年次を超えて指導することができた。 ○少人数授業やT T、特別支援教育支援員の支援等により、学ぶ意欲が高まった生徒がいる。 ○コンクール、各種大会に参加し、全国での入賞を果たした。 ○「授業で基礎的・基本的な学力が身についている」と思う生徒は36.5％。【指標①・学⑮】 （R2:24.6％→30.6％→R4:36.5％） ○「授業の予習や復習をしている」と肯定的に思う生徒は57.7％。【指標②・学⑫】 （R2:43.7％→60.0％→R4:57.7％） ○「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立っている」と肯定的に思う生徒は約93.6％。 【指標③・学⑰】 （R2:82.6％→94.4％→R4:93.6％）	○進路実現100％。勤労観、職業観が育ち、希望進路の実現に向けて努力している。 ○社会が認める力、社会が求める力を育成している。 ○「授業で基礎的・基本的な学力が身についている」と思う生徒が40％以上。 【指標①・学⑮】 ○「授業の予習や復習をしている」と肯定的に思う生徒が65％以上。 【指標②・学⑫】 ○「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立っている」と肯定的に思う生徒が90％以上。 【指標③・学⑰】	○進路、年次及び授業担当者との密な連携。 ○個に応じた適切な指導、支援。 ○ICT活用の推進。 ○青谷学Ⅰ及び青谷学Ⅱの充実。 ○各種検定や各種コンクールへの早期の案内と支援。	○進学希望の生徒を対象に個別指導を実施した。 ○家庭学習が習慣化していない生徒、課題が出せない生徒には声かけ等を行っている。 ○多くの生徒が、協働学習の中で考えを深めることができている。 ○1・2年生は各教科の授業、連絡、各種調査等でChromebookの活用が進んでいる。 ○青谷学をはじめとする探究活動や体験を通して、情報収集・情報活用能力を育み、情報を発信する力を伸ばしつつある。 ○各種検定については早期に案内をし、コンクールについても積極的に応募している。	C	○生活状況シートの活用や担任団を中心とした情報共有、外部機関との連携を充実させる。 ○生徒のニーズに合わせた補習の展開を検討する。 ○11月のICT研修により、教職員の意識とスキルの向上をはかる。 ○より充実した教育実践を展開できるよう人員や環境を整える。 ○12月の青谷学Ⅱ成果発表や2月の青谷学Ⅰのポスターセッションでの発表を目標に、情報発信力を育成する。 ○引き続き各種検定や各種コンクールへの早期の案内と積極的な生徒への支援、指導を行う。
2 徳を高める	○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。	○学校行事等で主体的に計画を立てたり、実行したりできる生徒が増えつつある。 ○「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒は44.9％。【指標④・学⑬】 （R2:51.3％→55.0％→R4:44.9％） ○「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒は54.5％。【指標⑤・学⑫】 （R2:40.4％→48.9％→R4:54.5％）	○相手の立場を意識した行動がとれるようになる。 ○生徒の地域に関する興味関心が高まっている。 ○ボランティア活動の推進。 ○「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒が60％以上。 【指標④・学⑬】 ○「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒が60％以上。 【指標⑤・学⑫】	○ルールやマナーに対する継続的な声かけ。 ○職員間での情報共有と個々に応じた丁寧な指導、支援。 ○教室のロッカーの活用。 ○人権LHRなど各種講演会の充実や地域との連携。 ○青谷学Ⅰ・Ⅱを通じて地域について学び、地域貢献や交流を図る。	○基本的な生活ルールを守って生活しているが、一部生徒は日々指導が必要である。 ○自主的に挨拶する力が身についていない。 ○青谷学や産業社会と人間、各種講演会等により地域社会とつながり、地域に目を向けるようになっていく。 ○1年次「青谷海岸清掃」の一環で行った「うみぼす甲子園」で11月に行われる全国大会に出場が決定した。 ○地域のボランティア活動への参加者は増えつつある。	C	○授業規律の徹底に向けて、全職員で共通理解の上協力して指導を行う。 ○挨拶の大切さを継続して伝える。 ○学校行事を通して生徒間で交流する場面をより多く作る。 ○ボランティア活動について、学校全体で検討していく。
3 健康を育む well-being	○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。	○授業規律は概ねよいが、遅刻、欠席が目立つ生徒もいる。 ○健康観察の inputs が習慣化できていない生徒がいる。 ○虫歯の治療率は低い が、改善傾向にある。 （R2:21.1％→22.1％→R4:29.2％） ○R5・1月末欠席率3.03％ 遅刻率1.60％。 欠 (R3:2.71％→2.46％→R5:3.03％) 遅 (R3:1.02％→1.00％→R5:1.60％) 【指標⑥】 ○部活動は充実していると肯定的に思う生徒は93.7％。 【指標⑦・学⑫】 （R2:79.4％→84.9％→R4:93.7％）	○基本的な生活習慣（時間・挨拶・マナー等）について考えて行動できる。 ○自己の健康の維持増進について関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○生徒会活動、学校行事に生徒が積極的にかかわっている。 ○部活動の充実。 ○欠席率・遅刻率2％未満。 【指標⑥】 ○部活動は充実していると肯定的に思う生徒が90％以上。 【指標⑦・学⑫】	○肯定的な声かけと、家庭との連携。 ○生徒会執行部が主体的に企画、運営できるよう支援する。 ○外部人材の活用。 ○公式Instagram、ホームページの活用。	○無断欠席、遅刻、早退は少なくなった。 ○コミュニケーション不足や配慮に欠ける行動から友人関係のトラブルがあった。 ○学校祭を通して、企画・運営し実行する力を身につけている。 ○自己理解の一助となる「だっぴ」「インターシップ」は自己肯定感の高揚に役立った。 ○欠席率 3.7％ 遅刻率 1.8％（9月末現在） ○部員数不足等により活動が低迷している部もあるが、大会出場や作品出展を通して個人の満足度を高める等の工夫をしながら活動を継続している。 ○Instagram、HPは日常的に更新し、情報発信に努めている。	C	○生徒個人への日常的な声かけ ○教育相談や保健室、保護者などと連携を密にして、生徒を支援、指導していく。 ○生徒会活動の活性化に向けて、定期的な協議と助言を行う。 ○10月より導入した「気持ちメーター」を通して自らの心身に気づくよう促していく。 ○引き続きInstagram、HP等により情報発信に努める。
4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。	○行事や講演会等が多く行われ、教職員に負担感がある。 ○時間外業務時間の全体平均は少なく、月45時間以上の延べ人数は9人である。【指標⑧】 （R2:延べ1人→0→R4:9人） ○R4年休取得は平均年14.48日。 （R2:12.66日→13.56日→R4:14.48日）【指標⑨】	○教職員が健康で教育活動が充実。 ○全教職員が、時間外業務時間は月45時間以内、年360時間以内。【指標⑧】 ○教職員の年休取得が平均年15日。 【指標⑨】	○管理職による声かけ。 ○毎月の部活動計画及び部活動実績報告。 ○業務日誌等のデジタル化など教育DXを進める。 ○会議資料の事前配付に努める。	○時間外業務時間が月45時間を超える者は1名。 ○年休取得平均 10.54日（9月末現在） ○業務日誌は全分掌デジタル化され、業務改善につながっている。	B	○引き続き管理職は、声かけを行うとともに、職場環境の整備に努める。